

## 平成 27 年度決算説明資料

## 目次

## I 平成 27 年度収支決算について

## 1 収支の状況

- (1) 収支の概要 1P
- (2) 収支の推移 2P
  - ① 概要 2P
  - ② 平成 26 年度決算との比較（病院別） 3P

## II 平成 27 年度資産・負債・資本及び留保資金の状況について

- 1 資産・負債・資本の状況 7P
- 2 施設整備・医療機器等購入について 9P
- 3 企業債（移行前地方債債務）・長期借入金の状況 10P
- 4 留保資金の状況 10P

## 資料編

## 1 各年度決算比較

- (1) 収支の状況 12P
  - (2) 収入の状況 13P
  - (3) 支出の状況 18P
- 2 平成 27 年度計画との比較（全体、病院別） 27P

I 平成 27 年度収支決算について

1 収支の状況

(1) 収支の概要

平成 27 年度の収支決算は、収入は 544.4 億円に対し、支出は 550.2 億円で、差引損益額は、▲5.8 億円の赤字となった。

なお、この赤字▲5.8 億円は、昨年度利益処分した積立金 11.1 億円のうち赤字相当額を取崩して充てる。

(表 1) 平成27年度収支決算

単位: 億円

区 分		合 計 一般 1,482床 精神 28床 感染症 16床 計 1,526床	病 院 別				
			広島市民病院 一般 715床 精神 28床 計 743床	安佐市民病院 一般 527床	舟入市民病院 一般 140床 感染症 16床 計 156床	リハビリテーション病院 一般 100床 自立訓練施設 定員 60名	
収 入	医 業 収 益	入院収入	337.7	197.3	109.0	16.1	15.3
		外来収入	145.2	92.1	41.1	11.6	0.4
		計	482.9	289.4	150.1	27.7	15.7
		その他	7.9	4.3	1.9	1.4	0.3
		小 計	490.8	293.7	152.0	29.1	16.0
	運営費負担金・交付金	46.2	17.5	8.9	12.8	7.0	
	その他	7.4	3.9	1.5	1.0	1.0	
	合 計	544.4	315.1	162.4	42.9	24.0	
支 出	給与費	273.6	148.8	85.1	23.1	16.6	
	材料費	163.1	108.4	47.9	6.3	0.5	
	減価償却費	40.0	23.4	10.8	3.7	2.1	
	その他	73.5	38.8	18.6	9.8	6.3	
	合 計	550.2	319.4	162.4	42.9	25.5	
差引損益		▲ 5.8	▲ 4.3	0.0	0.0	▲ 1.5	

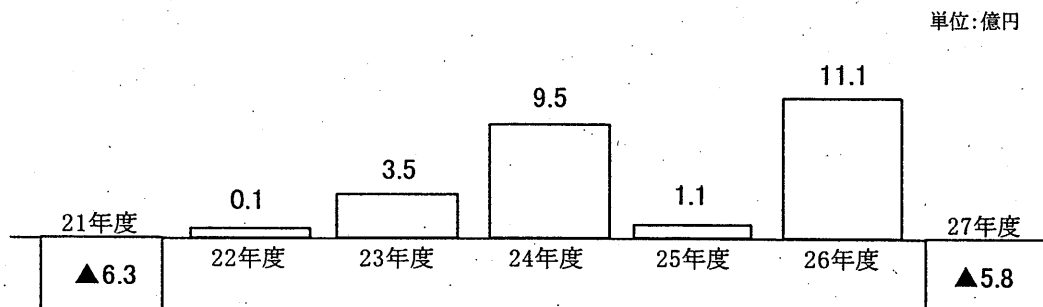
※ 本部事務局分は、各病院の職員数、事業規模等に基づき、本部経費が充てられる割合に応じて按分している。  
(按分比広島 50.6%、安佐 25.8%、舟入 13.2%、リハ 10.4%)

(2) 収支の推移

① 概要

- 平成 22 年度以降、平成 26 年度まで 5 年連続の黒字を維持していたが、広島市民病院が 6 年ぶりの赤字になり、安佐市民病院、舟入市民病院が僅かながらの黒字にとどまったことなどから、平成 27 年度は▲5.8 億円の赤字となった。

(図 1) 4 病院の損益の推移



(表 2) 病院別内訳

単位:億円

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
広島市民病院	▲ 2.8	0.4	3.9	6.1	1.8	5.6	▲ 4.3
安佐市民病院	2.3	4.6	5.0	8.8	4.7	5.8	0.0
舟入市民病院	▲ 2.6	▲ 1.9	▲ 2.3	▲ 2.3	▲ 2.4	1.0	0.0
リハビリテーション病院	▲ 3.2	▲ 3.0	▲ 3.1	▲ 3.1	▲ 3.0	▲ 1.3	▲ 1.5
計	▲ 6.3	0.1	3.5	9.5	1.1	11.1	▲ 5.8

② 平成 26 年度決算との比較（病院別）

(7) 広島市民病院

入院収入は、手術室を増設し、手術件数と入院患者数が増えたことなどにより 1.5 億円の増。外来収入は、通院するがん患者が増加したことに加え、高額な C 型肝炎新薬や抗がん剤の使用により 16.0 億円の増（C 型肝炎新薬を除くと 5.4 億円の増）。

医業収益のその他の収入は、人間ドックを舟入市民病院に移管したことに伴い 0.8 億円の減。

これらにより、収入合計は、前年度に比べ 16.5 億円の増。

支出については、給与費は、増員などにより 5.6 億円増。材料費は、高額な薬品の使用と入院・外来患者数の増加などにより 16.2 億円の増。（C 型肝炎新薬を除くと 5.9 億円の増）。減価償却費は 4.6 億円の増となり、支出合計は、前年度に比べ、26.4 億円の増。

その結果、差引損益は、前年度に比べ▲9.9 億円減の▲4.3 億円の赤字となった。

(表 3) 収支の推移

単位: 億円

区 分		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収 入	入院収入	177.7	184.9	187.8	195.8	197.3
	対前年度増減	-	7.2	2.9	8.0	<u>1.5</u>
	外来収入	67.0	68.4	70.8	76.1	(81.5)
	対前年度増減	-	1.4	2.4	5.3	<u>(5.4)</u>
	小 計	244.7	253.3	258.6	271.9	(278.8)
	対前年度増減	-	8.6	5.3	13.3	<u>(6.9)</u>
	その他	6.1	5.8	5.7	5.1	4.3
	対前年度増減	-	▲ 0.3	▲ 0.1	▲ 0.6	<u>▲ 0.8</u>
	計	250.8	259.1	264.3	277.0	293.7
	運営費負担金・交付金	16.0	14.9	12.4	17.2	17.5
対前年度増減	-	▲ 1.1	▲ 2.5	4.8	0.3	
その他	4.6	4.2	4.6	4.4	3.9	
対前年度増減	-	▲ 0.4	0.4	▲ 0.2	▲ 0.5	
合 計	271.4	278.2	281.3	298.6	315.1	
対前年度増減	-	6.8	3.1	17.3	<u>16.5</u>	
支 出	給与費	131.3	131.8	134.0	143.2	148.8
	対前年度増減	-	0.5	2.2	9.2	<u>5.6</u>
	材料費	77.7	81.3	87.3	92.2	(98.1)
	対前年度増減	-	3.6	6.0	4.9	<u>(5.9)</u>
	減価償却費	22.0	21.7	19.8	18.8	23.4
	対前年度増減	-	▲ 0.3	▲ 1.9	▲ 1.0	<u>4.6</u>
	その他	36.5	37.3	38.4	38.8	38.8
	対前年度増減	-	0.8	1.1	0.4	0.0
合 計	267.5	272.1	279.5	293.0	319.4	
対前年度増減	-	4.6	7.4	13.5	<u>26.4</u>	
差引損益		3.9	6.1	1.8	5.6	<u>▲ 4.3</u>
対前年度増減		-	2.2	▲ 4.3	3.8	<u>▲ 9.9</u>

※1 27年度の( )の数値は、27年度に新たに発売された薬価が高額で、かつ27年度で使用が概ね終息する見込であるC型肝炎の新薬を外来収入から10.6億円、材料費から10.3億円除いたもの。なお入院収入にもC型肝炎新薬が約180万円含まれているが、少額のため( )表示していない。

※2 26年度の数値は、26年度法人化移行時のみに生じる、収入、支出に同額が計上され収支に影響のない承継消耗品にかかる収支2.9億円を除いている。

(4) 安佐市民病院

入院・外来収入は、C型肝炎新薬を除くとほぼ前年度並みで、運営費負担金・交付金は、救急医療の増などにより1.0億円の増。C型肝炎新薬を含む収入合計は、前年度に比べ4.3億円の増。

支出については、給与費は、増員などにより2.4億円の増、材料費は、高額な薬品、診療材料の使用等により5.9億円の増（C型肝炎新薬を除くと1.7億円の増）。減価償却費は2.4億円の増、その他の支出は▲0.6億円の減となり、支出合計は前年度に比べ10.1億円の増。

その結果、差引損益は、前年度に比べ▲5.8億円の減となったものの僅かながら黒字となった。

(表4) 収支の推移

単位:億円

区分		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収 入	入院収入	100.4	103.0	103.0	109.6	(107.6) 109.0
	外来収入	33.3	34.2	34.6	36.9	(38.2) 41.1
	小計	133.7	137.2	137.6	146.5	(145.8) 150.1
	対前年度増減	-	3.5	0.4	8.9	(▲0.7) 3.6
	その他	2.0	2.0	1.9	2.0	1.9
	計	135.7	139.2	139.5	148.5	152.0
	運営費負担金・交付金	7.8	9.0	7.3	7.9	8.9
	対前年度増減	-	1.2	▲1.7	0.6	1.0
	その他	1.5	1.4	1.6	1.7	1.5
	対前年度増減	-	▲0.1	0.2	0.1	▲0.2
合計	145.0	149.6	148.4	158.1	162.4	
対前年度増減	-	4.6	▲1.2	9.7	4.3	
支 出	給与費	74.9	75.7	77.8	82.7	85.1
	対前年度増減	-	0.8	2.1	4.9	2.4
	材料費	38.1	38.4	38.9	42.0	(43.7) 47.9
	対前年度増減	-	0.3	0.5	3.1	(1.7) 5.9
	減価償却費	8.2	7.4	7.7	8.4	10.8
	対前年度増減	-	▲0.8	0.3	0.7	2.4
	その他	18.8	19.3	19.3	19.2	18.6
	対前年度増減	-	0.5	0.0	▲0.1	▲0.6
	合計	140.0	140.8	143.7	152.3	162.4
	対前年度増減	-	0.8	2.9	8.6	10.1
差引損益	5.0	8.8	4.7	5.8	0.0	
対前年度増減	-	3.8	▲4.1	1.1	▲5.8	

※1 27年度の( )の数値は、27年度に新たに発売された薬品が高額で、かつ27年度で使用が概ね終息する見込であるC型肝炎の新薬を入院収入から1.4億円、外来収入から2.9億円、材料費から4.2億円除いたもの。

※2 26年度の数値は、26年度法人化移行時のみに生じる、収入、支出に同額が計上され収支に影響のない承継消耗品にかかる収支1.7億円を除いている。

(ウ) 舟入市民病院

入院・外来収入は、7対1入院基本料となったことや血液内科新設に伴う抗がん剤治療患者の増などによる診療単価の増により0.5億円の増、その他収入は、広島市民病院からの人間ドックの移管により0.4億円の増、運営費負担金・交付金は、小児医療繰入の増などにより前年度に比べ2.6億円の増となり、収入合計は前年度に比べ3.5億円の増。

支出については、給与費は、増員などにより2.5億円増、材料費は、抗がん剤の使用の増などにより0.5億円増、減価償却費は1.0億円の増、その他支出は0.5億円の増となり、支出合計は、前年度に比べ4.5億円の増。

その結果、差引損益は、前年度に比べ▲1.0億円減となったものの僅かながら黒字となった。

(表5) 収支の推移

単位:億円

区分		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収入	入院収入	14.8	14.7	14.2	15.5	16.1
	外来収入	11.5	11.5	11.1	11.7	11.6
	小計	26.3	26.2	25.3	27.2	27.7
	対前年度増減	-	▲0.1	▲0.9	1.9	0.5
	その他	1.0	1.0	1.0	1.0	1.4
	対前年度増減	-	0.0	0.0	0.0	0.4
	計	27.3	27.2	26.3	28.2	29.1
	運営費負担金・交付金	7.9	7.9	8.0	10.2	12.8
	対前年度増減	-	0.0	0.1	2.2	2.6
	その他	0.9	0.9	0.9	1.0	1.0
対前年度増減	-	0.0	0.0	0.1	0.0	
合計	36.1	36.0	35.2	39.4	42.9	
対前年度増減	-	▲0.1	▲0.8	4.2	3.5	
支出	給与費	19.6	19.2	18.6	20.6	23.1
	対前年度増減	-	▲0.4	▲0.6	2.0	2.5
	材料費	4.9	5.3	5.1	5.8	6.3
	対前年度増減	-	0.4	▲0.2	0.7	0.5
	減価償却費	4.4	4.4	4.4	2.7	3.7
	対前年度増減	-	0.0	0.0	▲1.7	1.0
	その他	9.5	9.4	9.5	9.3	9.8
	対前年度増減	-	▲0.1	0.1	▲0.2	0.5
合計	38.4	38.3	37.6	38.4	42.9	
対前年度増減	-	▲0.1	▲0.7	0.8	4.5	
差引損益	▲2.3	▲2.3	▲2.4	1.0	0.0	
対前年度増減	-	0.0	▲0.1	3.4	▲1.0	

※ 26年度の数値は、26年度法人化移行時のみに生じる、収入、支出に同額が計上され収支に影響のない承継消耗品にかかる収支0.3億円を除いている。

## (イ) リハビリテーション病院・自立訓練施設

入院・外来収入は前年度並み、運営費負担金・交付金は、リハビリテーション医療にかかる繰入の増などにより1.3億円の増となり、収入合計は前年度に比べ1.3億円の増。

支出については、給与費は、増員などにより1.1億円の増、電子カルテシステム更新に伴うデータ移行経費の皆増などによりその他の経費は0.3億円の増となり、支出合計は前年度に比べ1.5億円の増。

その結果、差引損益は、前年度に比べ▲0.2億円減の▲1.5億円の赤字となった。

(表6) 収支の推移

単位:億円

区分		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収 入	入院収入	12.8	12.7	13.0	15.3	15.3
	外来収入	0.4	0.3	0.3	0.4	0.4
	小計	13.2	13.0	13.3	15.7	15.7
	対前年度増減	-	▲0.2	0.3	2.4	0.0
	その他	0.3	0.2	0.3	0.3	0.3
	計	13.5	13.2	13.6	16.0	16.0
	運営費負担金・交付金	4.2	4.6	4.7	5.7	7.0
	対前年度増減	-	0.4	0.1	1.0	1.3
	その他	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0
	対前年度増減	-	0.1	0.0	0.0	0.0
合計	18.6	18.8	19.3	22.7	24.0	
対前年度増減	-	0.2	0.5	3.4	1.3	
支 出	給与費	12.5	12.8	13.2	15.5	16.6
	対前年度増減	-	0.3	0.4	2.3	1.1
	材料費	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
	対前年度増減	-	0.0	0.0	0.0	0.0
	減価償却費	3.1	3.1	3.0	2.0	2.1
	対前年度増減	-	0.0	▲0.1	▲1.0	0.1
	その他	5.6	5.5	5.6	6.0	6.3
	対前年度増減	-	▲0.1	0.1	0.4	0.3
合計	21.7	21.9	22.3	24.0	25.5	
対前年度増減	-	0.2	0.4	1.7	1.5	
差引損益	▲3.1	▲3.1	▲3.0	▲1.3	▲1.5	
対前年度増減	-	▲0.0	0.1	1.7	▲0.2	

※ 26年度の数值は、26年度法人化移行時のみに生じる、収入、支出に同額が計上され収支に影響のない承継消耗品にかかる収支0.4億円を除いている。

## Ⅱ 平成 27 年度資産・負債・資本及び留保資金の状況について

### 1 資産・負債・資本の状況

#### (1) 固定資産

固定資産は、投資有価証券の取得により 72.8 億円の増、ハイブリッド手術室増設工事や電子カルテシステム更新整備などにより 40.3 億円増加したものの、減価償却等により 41.4 億円減少したことから、71.7 億円増の 639.1 億円となった。

#### (2) 流動資産

流動資産は、投資有価証券の取得により▲72.8 億円の減、医療機器等購入の財源として留保資金を活用したことによる▲15.5 億円の減、そのほか経費の支払などにより▲109.5 億円減の 174.2 億円となった。

#### (3) 固定負債

固定負債は、施設整備や医療機器購入などの財源として、広島市から長期借入金を借り入れ 24.7 億円増加したものの、移行前地方債償還債務について、一年以内に返済予定の当該債務が増となり、その額を流動負債に振り替えたことなどにより▲60.1 億円減少したことから、▲35.4 億円減の 481.8 億円となった。

#### (4) 流動負債

流動負債は、施設整備、医療機器購入などに係る未払金は減少したものの、一年以内に返済予定の移行前地方債償還債務が増したことなどにより 2.5 億円増の 130.6 億円となった。

#### (5) 資本金

期首の法人設立時の広島市からの出資金 193.9 億円から増減はない。

#### (6) 資本剰余金

リハビリテーション病院の土地に対する移行前地方債の償還にかかる広島市からの運営費負担金などにより 0.8 億円を計上し 1.7 億円となった。

#### (7) 利益剰余金

病院施設の整備、医療機器の購入、人材育成及び能力開発のための研修・教育などに充てる積立金として、前年度の利益処分額 11.1 億円を計上し、当期末処理損失として収支決算の赤字額▲5.8 億円を計上した。



(表7) 貸借対照表 (全体)

単位: 億円

区 分	期 首 (27年4月1日)	期 末 (28年3月31日)	増 ▲ 減	増 減 率
資 産				%
固 定 資 産	567.4	<u>639.1</u>	<u>71.7</u>	12.6
流 動 資 産	283.7	<u>174.2</u>	<u>▲ 109.5</u>	▲ 38.6
現 金 預 金	131.0	76.4	▲ 54.6	▲ 41.7
未 収 金	84.1	95.0	10.9	12.9
そ の 他	68.6	2.8	▲ 65.8	▲ 95.9
合 計	851.2	813.3	▲ 37.9	▲ 4.4
負 債				
固 定 負 債	517.2	<u>481.8</u>	<u>▲ 35.4</u>	▲ 6.9
流 動 負 債	128.1	<u>130.6</u>	<u>2.5</u>	1.9
未 払 金	78.9	54.9	▲ 24.0	▲ 30.4
そ の 他 流 動 負 債	49.2	75.7	26.5	53.7
計	645.4	612.4	▲ 33.0	▲ 5.1
資 本				
資 本 金	193.9	193.9	0.0	0.0
設 立 団 体 出 資 金	193.9	<u>193.9</u>	0.0	0.0
資 本 剰 余 金	0.8	<u>1.7</u>	0.9	-
利 益 剰 余 金	11.1	5.3	▲ 5.8	-
病院施設の整備、医療機器 の購入、人材育成及び能力 開発のための研修・教育な どに充てる積立金	-	<u>11.1</u>	11.1	-
当 期 未 処 理 損 失	11.1	<u>▲ 5.8</u>	▲ 16.9	-
計	205.8	200.9	▲ 4.9	▲ 2.4
合 計	851.2	813.3	▲ 37.9	▲ 4.4

## 2 施設整備・医療機器等購入について

### (1) 概要

施設整備・医療機器等購入については、中期計画で、安佐市民病院の建替えに係る整備費を除き 26～29年度の事業費総額 147.8 億円を定め、その範囲内で、必要な整備を行うこととしている。

このうち、27 年度の実業費は計画 54.9 億円に対し、決算額は 40.1 億円となったが、工期・納期が 28 年度に及ぶため、28 年度へ事業費を繰越した 12.0 億円と合わせた合計事業費は、52.1 億円で、不用額は 2.8 億円である。

なお、決算額 40.1 億円の財源としては、広島市から 24.7 億円を長期借入するほか、医療機器等購入については、広島市民病院が 5.1 億円、安佐市民病院が 10.4 億円、合計 15.5 億円の留保資金を活用した。

### (2) 施設整備

施設整備は、広島市民病院がハイブリッド手術室増設工事外 7.4 億円、安佐市民病院が屋上防水改修その他工事外 1.4 億円、舟入市民病院が 7 階感染症病棟西側改修工事外 0.7 億円の合計 9.5 億円を行った。

### (3) 医療機器等購入

医療機器等購入は、広島市民病院が生理検査システム外 5.1 億円、安佐市民病院が手術用ロボット外 10.4 億円、舟入市民病院が生体情報ネットワークシステム外 3.8 億円、リハビリテーション病院が検体検査システム外 0.5 億円の合計 19.8 億円を行った。

### (4) 電子カルテ更新整備

4 病院の病院総合情報システム（電子カルテシステム）について、27 年度中に順次運用を開始し、全体事業費 29.3 億円のうち 27 年度は 4 病院で 10.8 億円整備した。

(表 8) 平成27年度施設整備・医療機器等購入の内訳

単位:億円

区分	27年度計画 ①	27年度決算 ②	28年度へ の繰越③	合計事業費 ④(②+③)	不用額 ①-④	財源	主な整備内容	
広島市民病院	施設整備	9.6	<u>7.4</u>	2.0	9.4	0.2	長期借入金	ハイブリッド手術室増設工事外
	医療機器等購入	14.8	<u>5.1</u>	8.8	13.9	0.9	留保資金	生理検査システム外
	電子カルテ更新整備	0.6	<u>0.6</u>	-	0.6	0.0	長期借入金	
	計	25.0	13.1	10.8	23.9	1.1		
安佐市民病院	施設整備	3.0	<u>1.4</u>	0.6	2.0	1.0	長期借入金	屋上防水改修その他工事外
	医療機器等購入	11.1	<u>10.4</u>	0.6	11.0	0.1	留保資金	手術用ロボット外
	電子カルテ更新整備	4.7	<u>4.7</u>	-	4.7	0.0	長期借入金	
	計	18.8	16.5	1.2	17.7	1.1		
舟入市民病院	施設整備	0.8	<u>0.7</u>	0.0	0.7	0.1	長期借入金	7階感染症病棟西側改修工事外
	医療機器等購入	4.5	<u>3.8</u>	0.0	3.8	0.7	長期借入金	生体情報ネットワークシステム外
	電子カルテ更新整備	3.0	<u>3.0</u>	-	3.0	0.0	長期借入金	
	計	8.3	7.5	0.0	7.5	0.8		
リハビリテーション病院	施設整備	-	-	-	-	-		
	医療機器等購入	0.3	<u>0.5</u>	0.0	0.5	▲0.2	長期借入金	検体検査システム外
	電子カルテ更新整備	2.5	<u>2.5</u>	-	2.5	0.0	長期借入金	
	計	2.8	3.0	0.0	3.0	▲0.2		
合計	施設整備	13.4	<u>9.5</u>	2.6	12.1	1.3		
	医療機器等購入	30.7	<u>19.8</u>	9.4	29.2	1.5		
	電子カルテ更新整備	10.8	<u>10.8</u>	-	10.8	0.0		
	計	<u>54.9</u>	<u>40.1</u>	<u>12.0</u>	<u>52.1</u>	<u>2.8</u>		

※ 電子カルテ更新整備の全体事業費は、25年度0.1億円、26年度18.4億円、27年度10.8億円の合計29.3億円である。

### 3 企業債（移行前地方債債務）・長期借入金の状況

企業債（移行前地方債債務）・長期借入金については、27年度中に、24.7億円の借入れに対し35.8億円の償還を行ったため、27年度末の残高は、27年度期首残高から▲11.1億円減少し、400.7億円となった。

（表9）企業債（移行前地方債償還債務）・長期借入金の推移

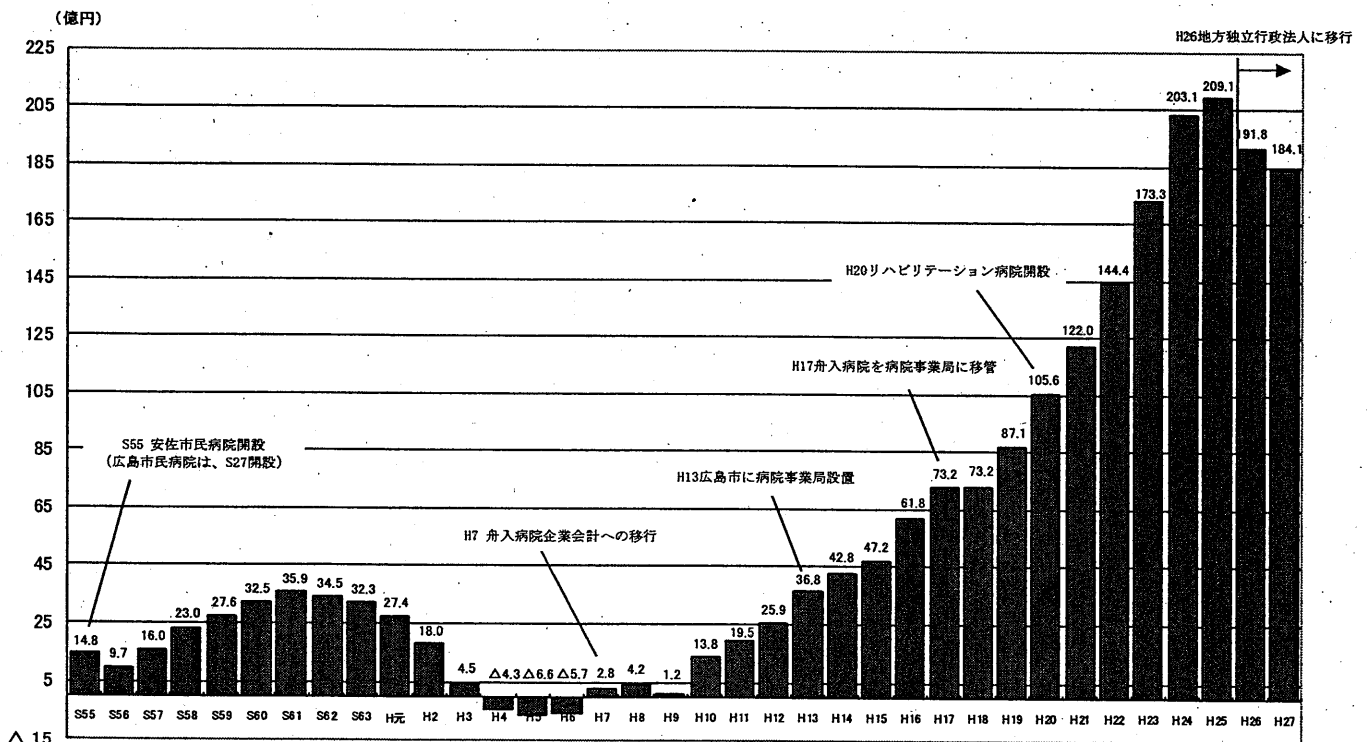
区分	27年度期首残高① (企業債)	27年度中の借入・償還		27年度末残高②	27年度末・27年度期 首残高増減 ②-①
		長期借入金(増)	企業債償還(減)		
広島市民病院	246.5	8.0	19.0	235.5	▲11.0
安佐市民病院	44.9	6.2	9.5	41.6	▲3.3
舟入市民病院	55.3	7.5	4.4	58.4	3.1
リハビリテーション病院	65.1	3.0	2.9	65.2	0.1
合計	411.8	24.7	35.8	400.7	▲11.1

単位:億円

### 4 留保資金の状況

留保資金を活用して、中期計画期間中にこれまで抑制的であった広島市民病院・安佐市民病院の医療機器の整備を行うことなどから、留保資金は26年度末の191.8億円から27年度末では184.1億円となった。

（図2）留保資金の推移



注1 H25以降の留保資金には、投資有価証券及び定期預金を含んでいる。

注2 H26年度以降の留保資金額は、目的積立金を除いている。(H26 11.1億円、H27 5.3億円)

（表10）27年度末留保資金の病院別内訳

単位:億円

区分	26年度末残高 A	27年度末残高 B	27年度末・26年度末 残高増減 B-A
広島市民病院	98.7	97.0	▲1.7
安佐市民病院	66.0	59.0	▲7.0
舟入市民病院	27.1	28.1	1.0
リハビリテーション病院	-	-	-
合計	191.8	184.1	▲7.7

※ リハビリテーション病院は、減価償却前収支に収支不足が生じているため、留保資金が生じない。(不足分は全額市から繰入)

# 資 料 編

1 各年度決算比較

(1) 収支の状況

(表 1.) 収支の推移

単位:億円

区分		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収入	入院収入	305.7	315.3	318.0	336.2	(336.3) 337.7
	対前年度増減	-	9.6	2.7	18.2	(0.1) 1.5
	外来収入	112.2	114.4	116.8	125.1	(131.7) 145.2
	対前年度増減	-	2.2	2.4	8.3	(6.6) 20.1
	小計	417.9	429.7	434.8	461.3	(468.0) 482.9
	対前年度増減	-	11.8	5.1	26.5	(6.7) 21.6
	その他	9.4	9.0	8.9	8.4	7.9
	計	427.3	438.7	443.7	469.7	490.8
	運営費負担金・交付金	35.9	36.4	32.4	41.0	46.2
	対前年度増減	-	0.5	▲ 4.0	8.6	5.2
	その他	7.9	7.5	8.1	8.1	7.4
	対前年度増減	-	▲ 0.4	0.6	0.0	▲ 0.7
	合計	471.1	482.6	484.2	518.8	544.4
	対前年度増減	-	11.5	1.6	34.6	25.6
支出	給与費	238.3	239.5	243.6	262.0	273.6
	対前年度増減	-	1.2	4.1	18.4	11.6
	材料費	121.2	125.5	131.8	140.5	(148.6) 163.1
	対前年度増減	-	4.3	6.3	8.7	(8.1) 22.6
	減価償却費	37.7	36.6	34.9	31.9	40.0
	対前年度増減	-	▲ 1.1	▲ 1.7	▲ 3.0	8.1
	その他	70.4	71.5	72.8	73.3	73.5
	対前年度増減	-	1.1	1.3	0.5	0.2
	合計	467.6	473.1	483.1	507.7	550.2
	対前年度増減	-	5.5	10.0	24.6	42.5
差引損益		3.5	9.5	1.1	11.1	▲ 5.8
対前年度増減		-	6.0	▲ 8.4	10.0	▲ 16.9

※1 27年度の( )の数値は、27年度に新たに発売された薬価が高額で、かつ27年度で使用が概ね終息する見込であるC型肝炎の新薬を入院収入から1.4億円、外来収入から13.5億円、材料費から14.5億円を除いたもの。

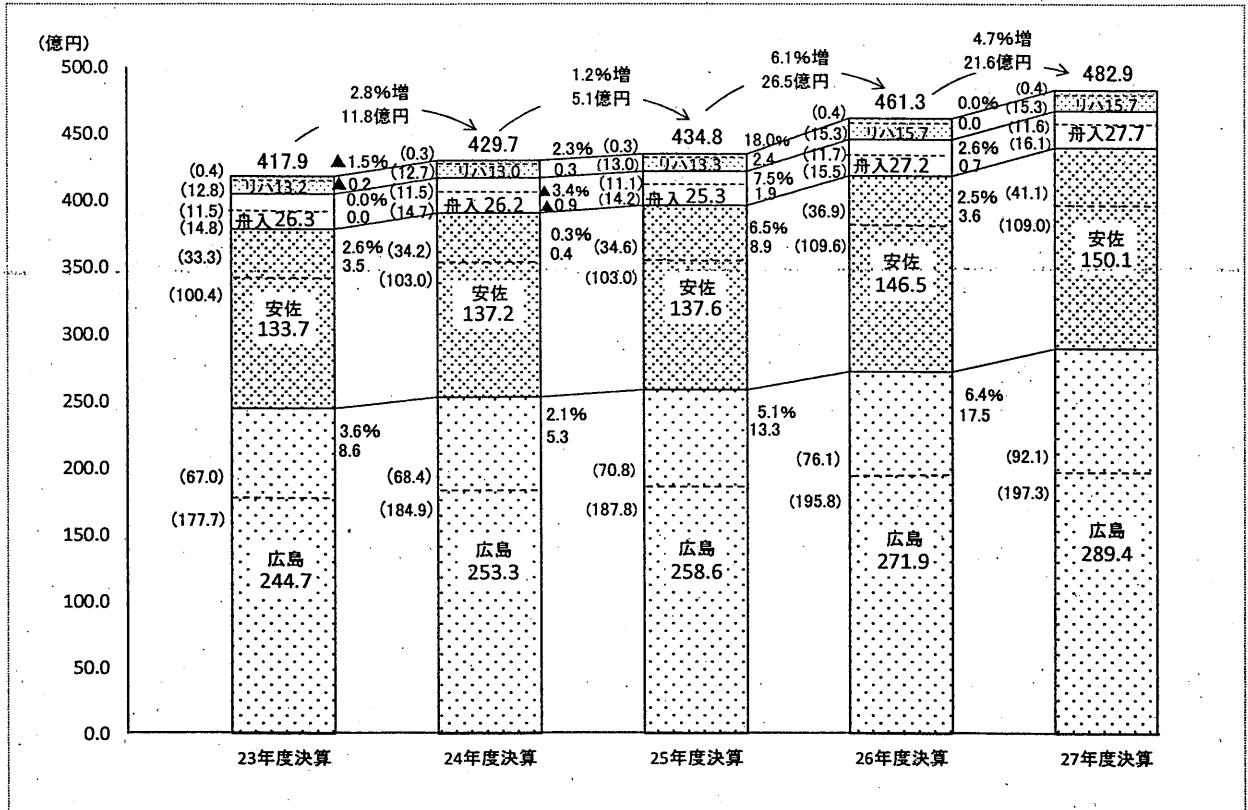
※2 26年度の数値は、26年度法人化移行時のみに生じる、収入、支出に同額が計上され収支に影響のない承継消耗品にかかる収支5.3億円を除いている。

※3 「その他」の内訳は、

- ① 医業収益の「その他」は、室料差額収益、人間ドック等の公衆衛生活動収益及び診断書料等のその他医業収益。
- ② 収入の「その他」は、補助金等収益、寄附金収益、自立訓練施設収益、預金利息等の財務収益及び駐車場使用料等。
- ③ 支出の「その他」は、委託料や光熱水費等の経費、資産減耗費、研究研修費、移行前地方債利息及び雑支出。

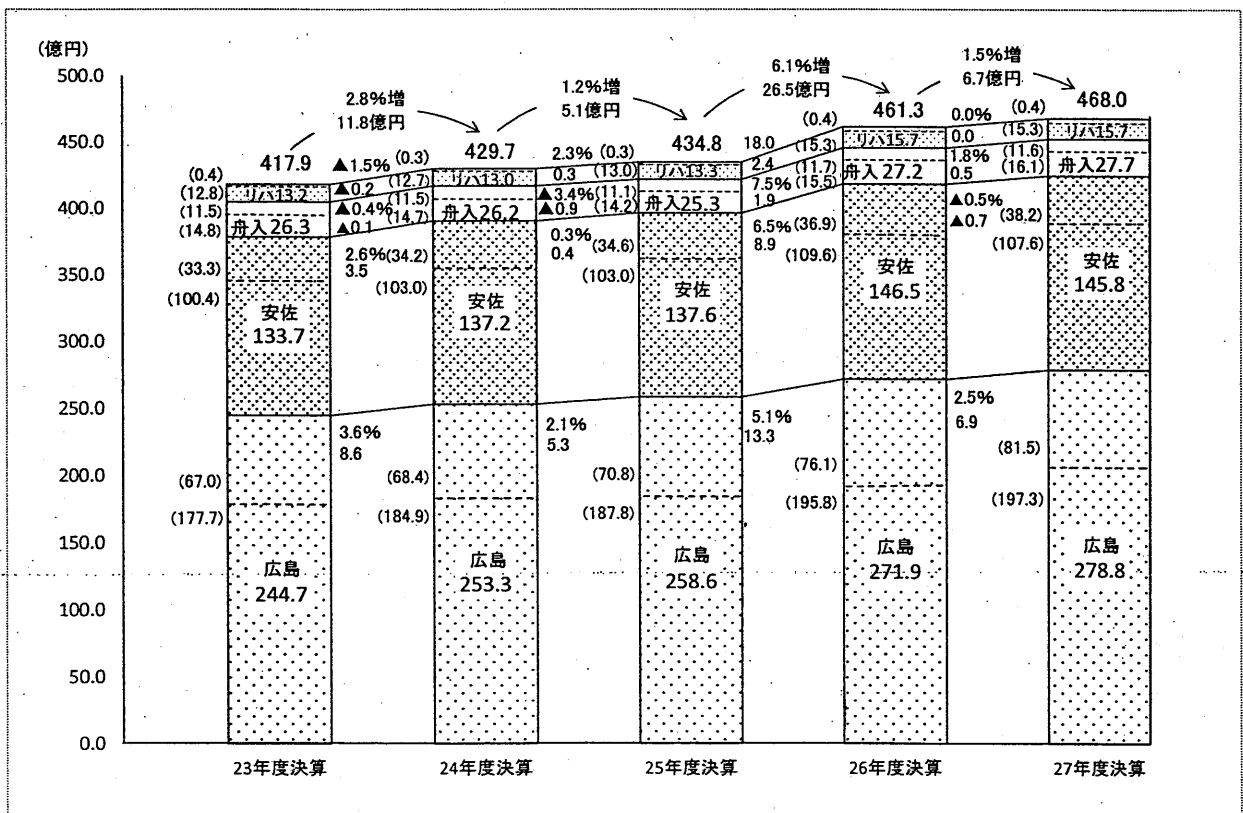
(2) 収入の状況

(図1-1) 入院・外来収入



注 各病院のグラフ間の数値は、上段が対前年度伸率、下段が対前年度増減額。各病院のグラフ左側の( )の数値は、上段が外来収入額、下段が入院収入額を示す。

(図1-2) 入院・外来収入 (27年度決算からC型肝炎の新薬分を除いた場合)



(表2) 延入院患者数の推移

単位:人

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
広島市民病院	265,115	261,177	255,285	259,257	261,859
対前年度増減	-	▲ 3,938	▲ 5,892	3,972	2,602
安佐市民病院	172,043	168,774	163,212	168,208	162,072
対前年度増減	-	▲ 3,269	▲ 5,562	4,996	▲ 6,136
舟入市民病院	37,988	36,502	36,053	37,569	36,399
対前年度増減	-	▲ 1,486	▲ 449	1,516	▲ 1,170
リハビリテーション病院	35,006	33,586	34,333	34,934	35,178
対前年度増減	-	▲ 1,420	747	601	244
計	510,152	500,039	488,883	499,968	495,508
対前年度増減	-	▲ 10,113	▲ 11,156	11,085	▲ 4,460

(表3) 入院単価/患者1人・1日当たり

単位:円

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
広島市民病院	67,031	70,772	73,565	75,533	(75,353) 75,360
対前年度増減	-	3,741	2,793	1,968	(▲ 180) ▲ 173
安佐市民病院	58,336	61,021	63,105	65,181	(66,365) 67,243
対前年度増減	-	2,685	2,084	2,076	(1,184) 2,062
舟入市民病院	39,033	40,219	39,516	41,200	44,130
対前年度増減	-	1,186	▲ 703	1,684	2,930
リハビリテーション病院	36,469	37,800	37,911	43,913	43,426
対前年度増減	-	1,331	111	6,002	▲ 487

※27年度の上段( )の数値は、C型肝炎に係る薬品費を除いた額

(表4) 病床利用率

単位:%

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
広島市民病院	97.5	96.3	94.1	95.6	96.3
対前年度増減	-	▲ 1.2	▲ 2.2	1.5	0.7
安佐市民病院	89.2	87.7	84.8	87.4	84.0
対前年度増減	-	▲ 1.5	▲ 2.9	2.6	▲ 3.4
舟入市民病院	(73.3) 77.5	(72.9) 74.5	(75.4) 72.6	(78.8) 76.8	(76.6) 74.2
対前年度増減	(-) -	(▲ 0.4) ▲ 3.0	(2.5) ▲ 1.9	(3.4) 4.2	(▲ 2.2) ▲ 2.6
リハビリテーション病院	95.6	92.0	94.1	95.7	96.1
対前年度増減	-	▲ 3.6	2.1	1.6	0.4

※舟入市民病院の( )の数値は、内科・外科のみの数値

(表5) 平均在院日数

単位:日

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
広島市民病院	12.5	12.3	12.0	11.5	11.5
対前年度増減	-	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 0.5	0.0
安佐市民病院	13.2	12.6	11.9	11.4	10.6
対前年度増減	-	▲ 0.6	▲ 0.7	▲ 0.5	▲ 0.8
舟入市民病院	10.1	10.0	10.1	9.0	8.6
対前年度増減	-	▲ 0.1	0.1	▲ 1.1	▲ 0.4
リハビリテーション病院	78.1	77.3	76.0	79.2	95.2
対前年度増減	-	▲ 0.8	▲ 1.3	3.2	16.0

(表6) 新規入院患者数

単位:人

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
広島市民病院	19,631	19,617	19,656	20,776	20,869
対前年度増減	-	▲ 14	39	1,120	93
安佐市民病院	12,122	12,392	12,639	13,545	14,026
対前年度増減	-	270	247	906	481
舟入市民病院	3,437	3,307	3,254	3,751	3,805
対前年度増減	-	▲ 130	▲ 53	497	54
リハビリテーション病院	442	428	450	434	405
対前年度増減	-	▲ 14	22	▲ 16	▲ 29
計	35,632	35,744	35,999	38,506	39,105
対前年度増減	-	112	255	2,507	599

(表7) 手術件数

単位:件

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
広島市民病院	8,582	8,530	8,628	8,718	9,097
対前年度増減	-	▲ 52	98	90	379
安佐市民病院	5,099	5,098	5,211	5,797	5,719
対前年度増減	-	▲ 1	113	586	▲ 78
舟入市民病院	625	599	610	637	583
対前年度増減	-	▲ 26	11	27	▲ 54
リハビリテーション病院	-	-	-	-	-
対前年度増減	-	-	-	-	-
計	14,306	14,227	14,449	15,152	15,399
対前年度増減	-	▲ 79	222	703	247

※ 件数は、手術室で行った手術件数を集計



(表8) 延外来患者数の推移

単位:人

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
広島市民病院	413,572	415,421	411,048	419,514	430,730
対前年度増減	-	1,849	▲ 4,373	8,466	11,216
安佐市民病院	201,811	199,428	193,436	192,717	194,674
対前年度増減	-	▲ 2,383	▲ 5,992	▲ 719	1,957
舟入市民病院	100,453	96,548	90,509	91,964	88,933
対前年度増減	-	▲ 3,905	▲ 6,039	1,455	▲ 3,031
リハビリテーション病院	3,444	3,360	3,093	3,610	3,362
対前年度増減	-	▲ 84	▲ 267	517	▲ 248
計	719,280	714,757	698,086	707,805	717,699
対前年度増減	-	▲ 4,523	▲ 16,671	9,719	9,894

(表9) 外来単価/患者1人・1日当たり

単位:円

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
広島市民病院	16,195	16,470	17,227	18,135	(18,912) 21,376
対前年度増減	-	275	757	908	(777) 3,241
安佐市民病院	16,483	17,139	17,904	19,124	(19,580) 21,089
対前年度増減	-	656	765	1,220	(456) 1,965
舟入市民病院	11,384	11,935	12,232	12,731	13,064
対前年度増減	-	551	297	499	333
リハビリテーション病院	11,370	10,066	10,685	11,530	12,413
対前年度増減	-	▲ 1,304	619	845	883

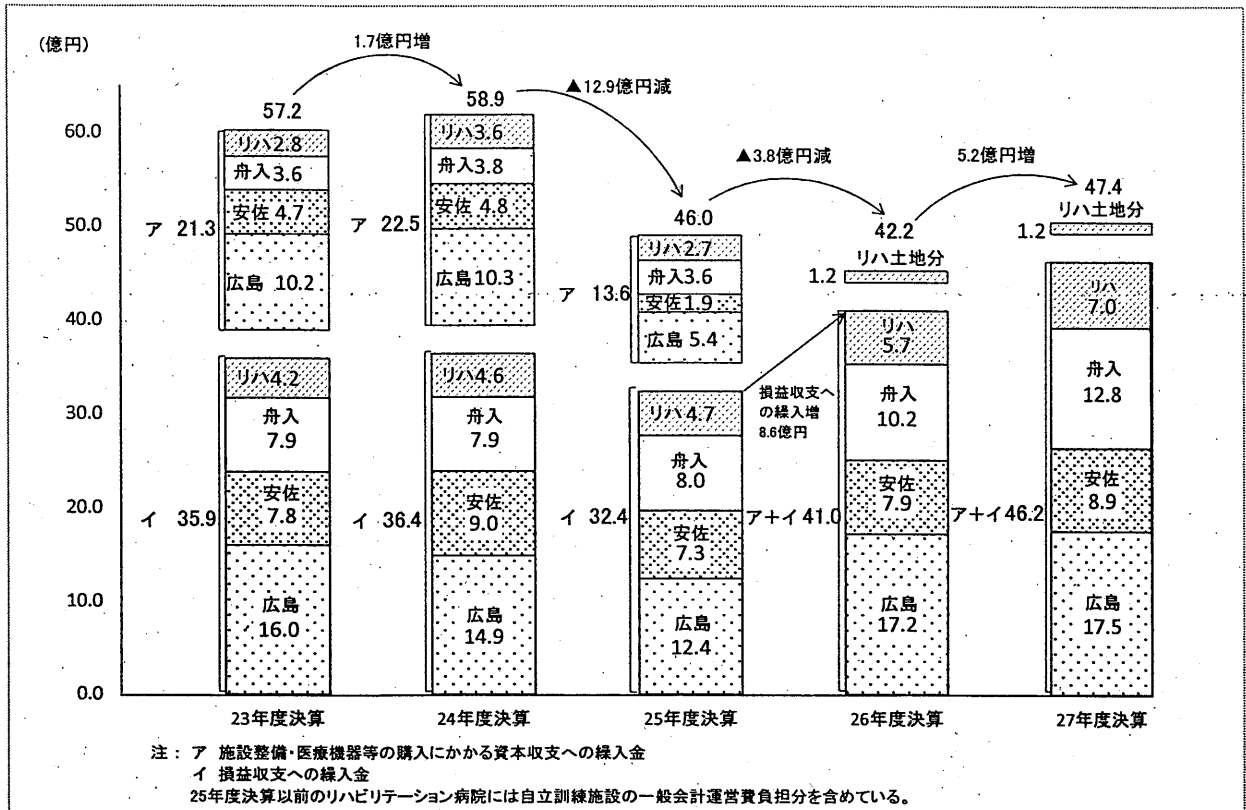
※27年度の上段( )の数値は、C型肝炎に係る薬品費を除いた額

(表10) 救急患者数

単位:人

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
広島市民病院	36,037	36,943	34,771	35,095	33,630
対前年度増減	-	906	▲ 2,172	324	▲ 1,465
安佐市民病院	11,216	10,853	9,986	11,017	11,133
対前年度増減	-	▲ 363	▲ 867	1,031	116
舟入市民病院	44,773	42,319	40,991	40,444	40,667
対前年度増減	-	▲ 2,454	▲ 1,328	▲ 547	223
リハビリテーション病院	-	-	-	-	-
対前年度増減	-	-	-	-	-
計	92,026	90,115	85,748	86,556	85,430
対前年度増減	-	▲ 1,911	▲ 4,367	808	▲ 1,126

(図2) 市からの繰入金



(表11) 27年度運営費負担金・交付金の内訳

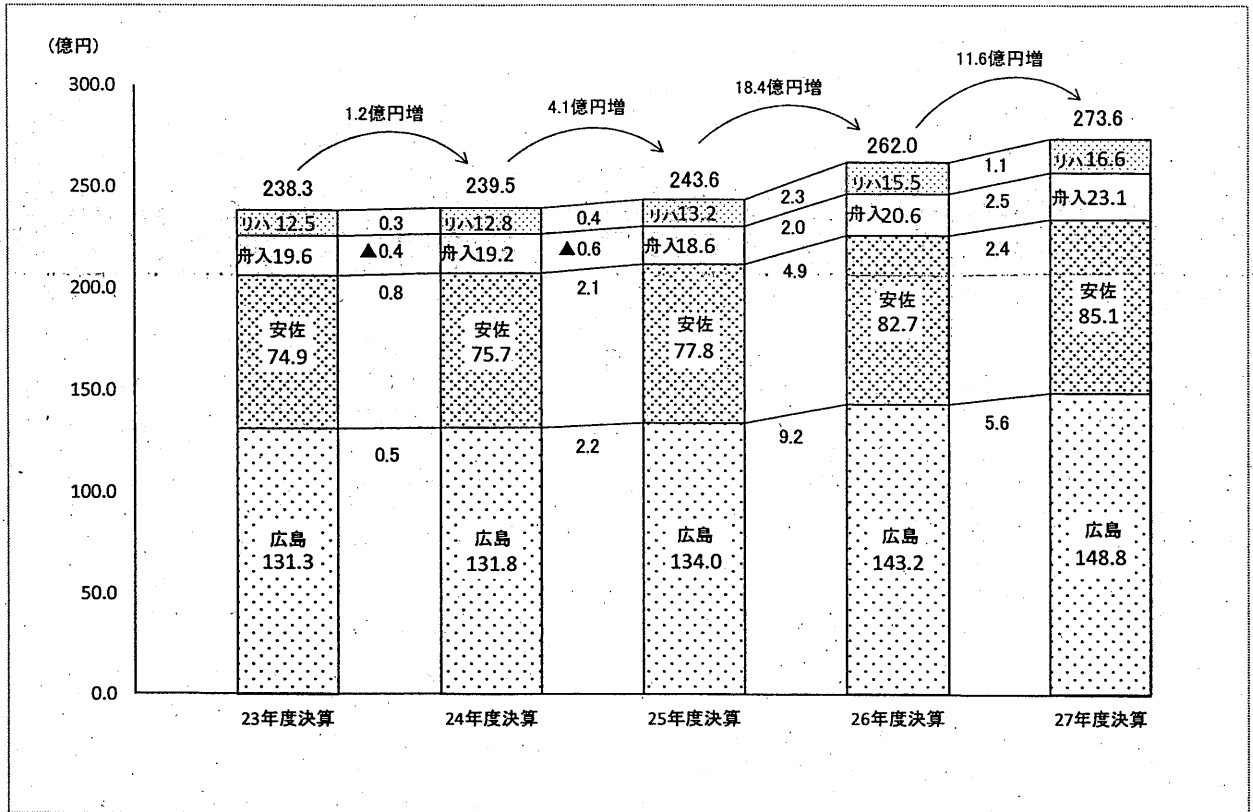
単位: 億円

区分	合計	病院別			
		広島市民病院	安佐市民病院	舟入市民病院	リハビリテーション病院
1. 保健衛生行政(自立訓練施設分を含む)	3.6	0.2	0.2	1.1	2.1
2. 救急医療	15.0	7.9	2.9	4.2	-
3. 被爆者健診	0.3	-	-	0.3	-
4. 看護師養成	0.5	0.3	0.1	0.1	0.0
5. 特殊医療(リハビリテーション等)	5.1	0.7	1.8	-	2.6
6. 感染症医療	0.4	-	-	0.4	-
7. 小児医療	1.7	-	0.1	1.6	-
8. 院内保育	0.8	0.4	0.4	-	-
9. 企業債利息償還金	2.8	1.4	0.1	0.7	0.6
10. 医師等の研究研修に要する経費	0.7	0.4	0.2	0.1	0.0
11. 経営研修に要する経費	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12. 共済組合追加費用	1.1	0.6	0.4	0.1	-
13. 退職手当(交付金)	0.3	-	-	0.3	-
14. 企業債元金償還金(リハ病院土地取得分を除く)	13.9	5.6	2.7	3.9	1.7
計	46.2	17.5	8.9	12.8	7.0
企業債元金償還金(リハ病院土地取得分)	1.2	-	-	-	1.2
合計	47.4	17.5	8.9	12.8	8.2

※ 市からの繰入金は、47.4億円で、リハ病院に係る土地購入の企業債元金償還金に対する繰入1.2億円は損益収支で収入しないことから、損益収支での収入は46.2億円である。

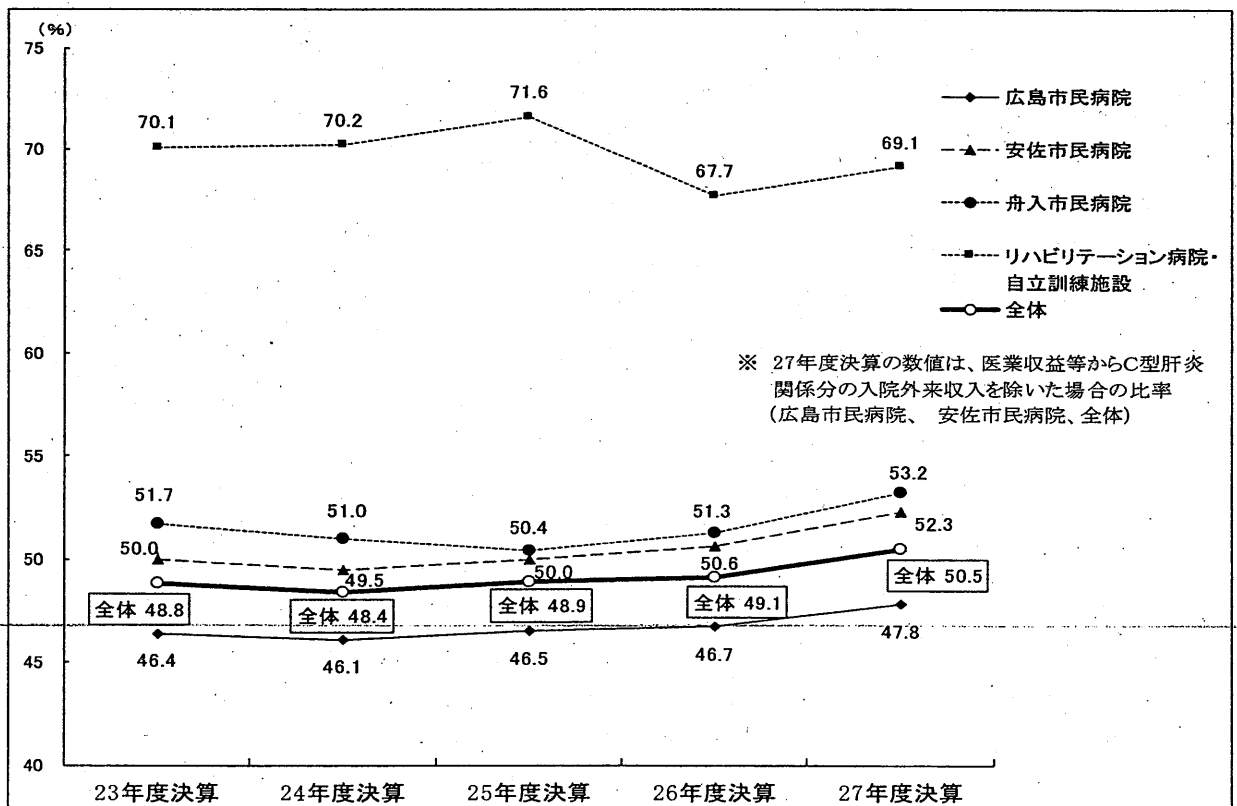
(3) 支出の状況

(図3) 給与費



注 各費目のグラフ間の数値は、対前年度増減額

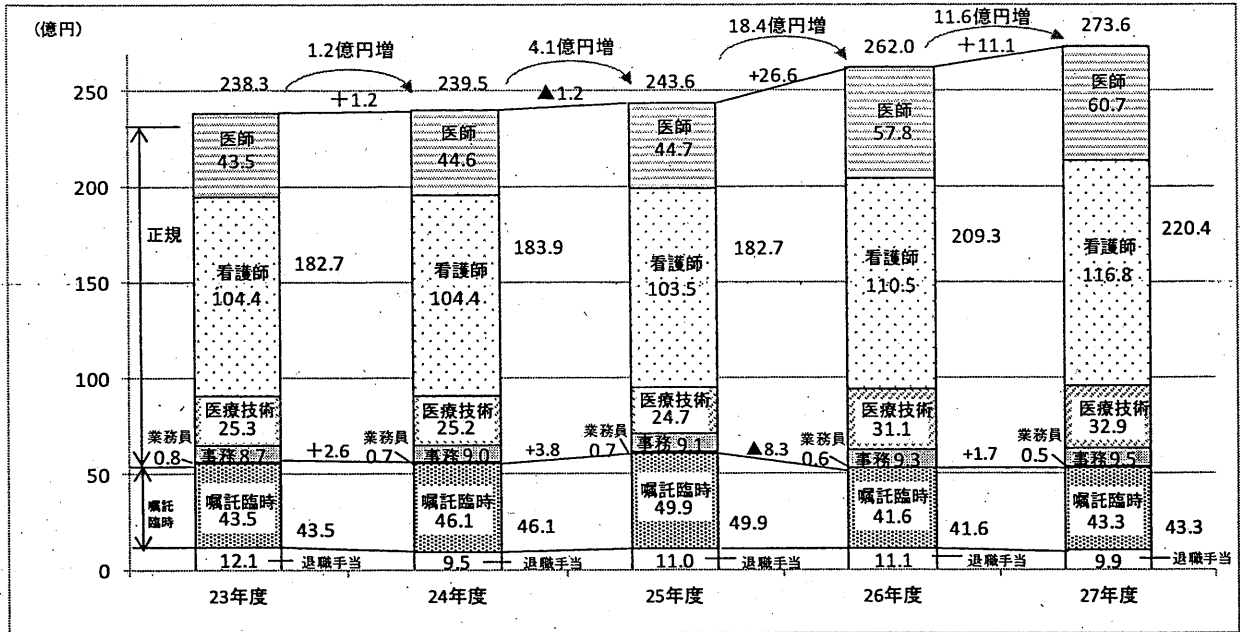
(図4) 給与費対医業収益等比率



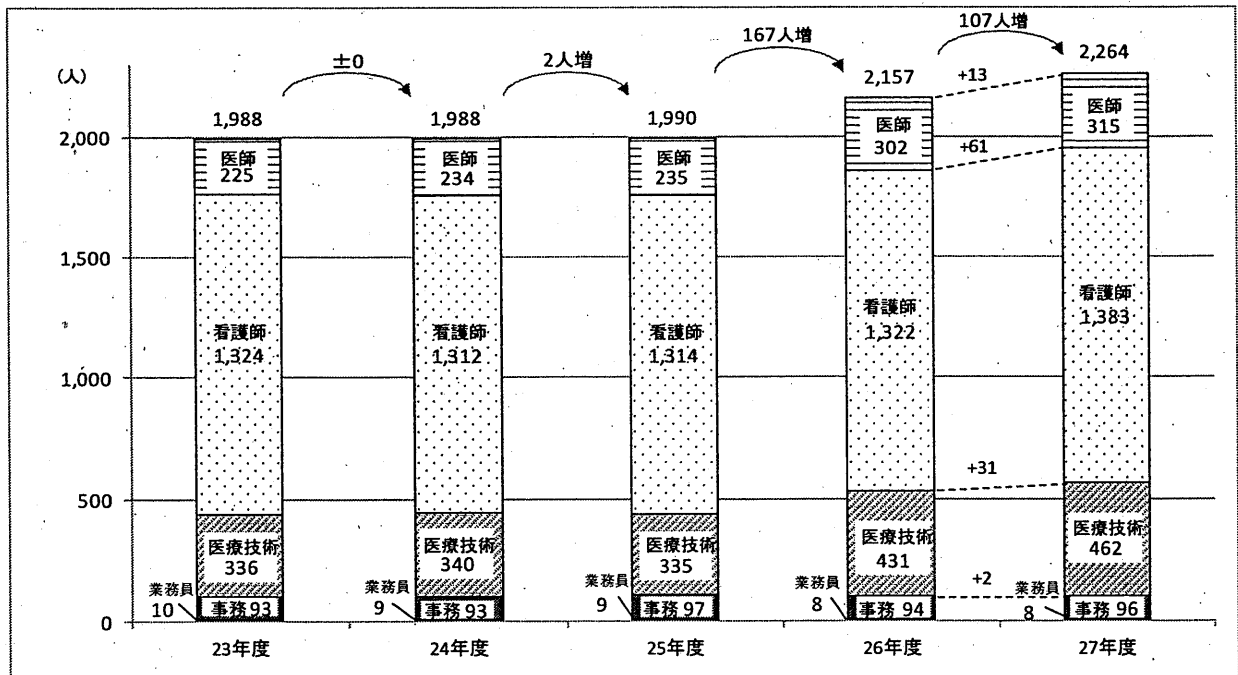
注 給与費対医業収益等比率 = (給与費 / 医業収益等) × 100

- ・給与費は退職給付費用を除く。また、本部事務局分の給与費は、各病院の職員数、事業規模等に基づき、本部経費が充てられる割合に応じて按分し、各病院に加算している。
- ・医業収益等は、医業収益(「入院収入」+「外来収入」+「その他医業収入」)に「損益収支への繰入金」を加えたものとしており、事業報告書等に記載している「給与費対医業収益比率」とは異なっている。

(図5) 給与費の推移—職種別

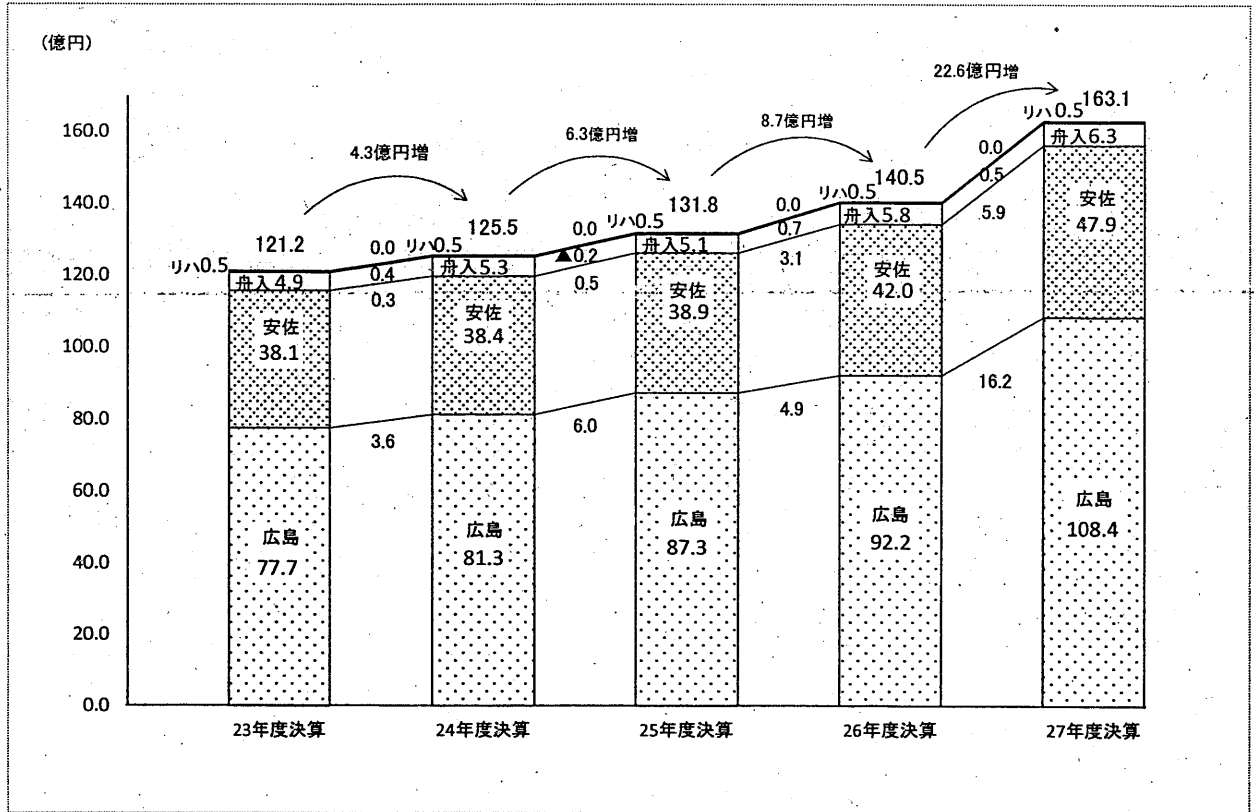


(図6) 正規職員数の推移



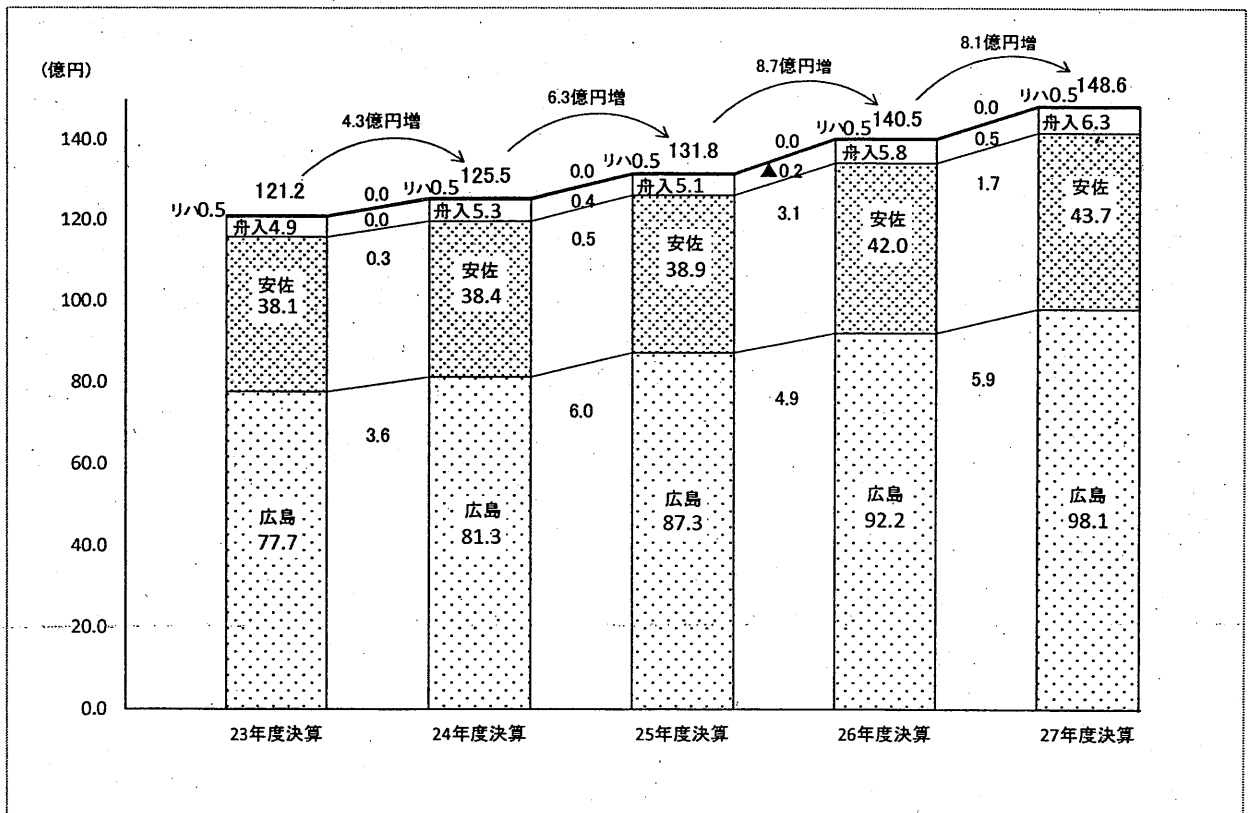
※職員数は各月の給与支給人員の平均

(図7-1) 材料費

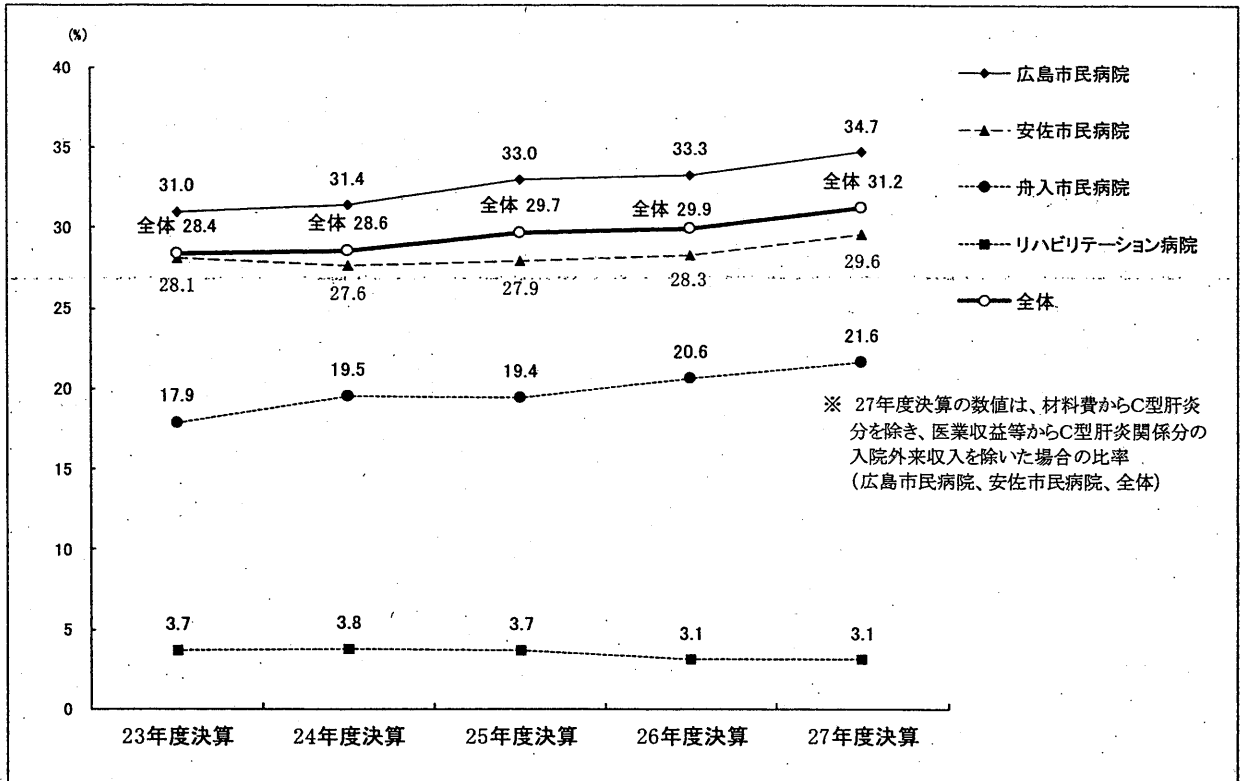


注 各費目のグラフ間の数値は、対前年度増減額

(図7-2) 材料費 (27年度決算からC型肝炎の新薬分を除いた場合)

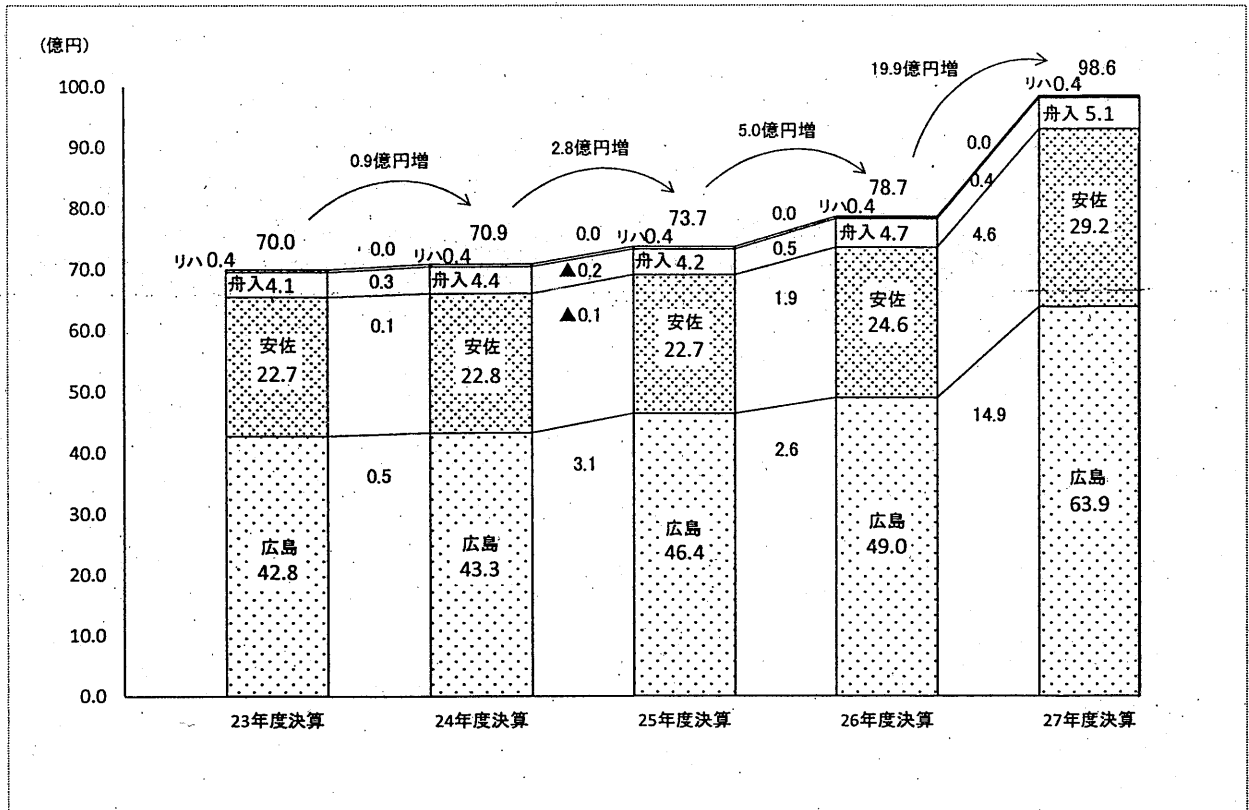


(図8) 材料費対医業収益比率

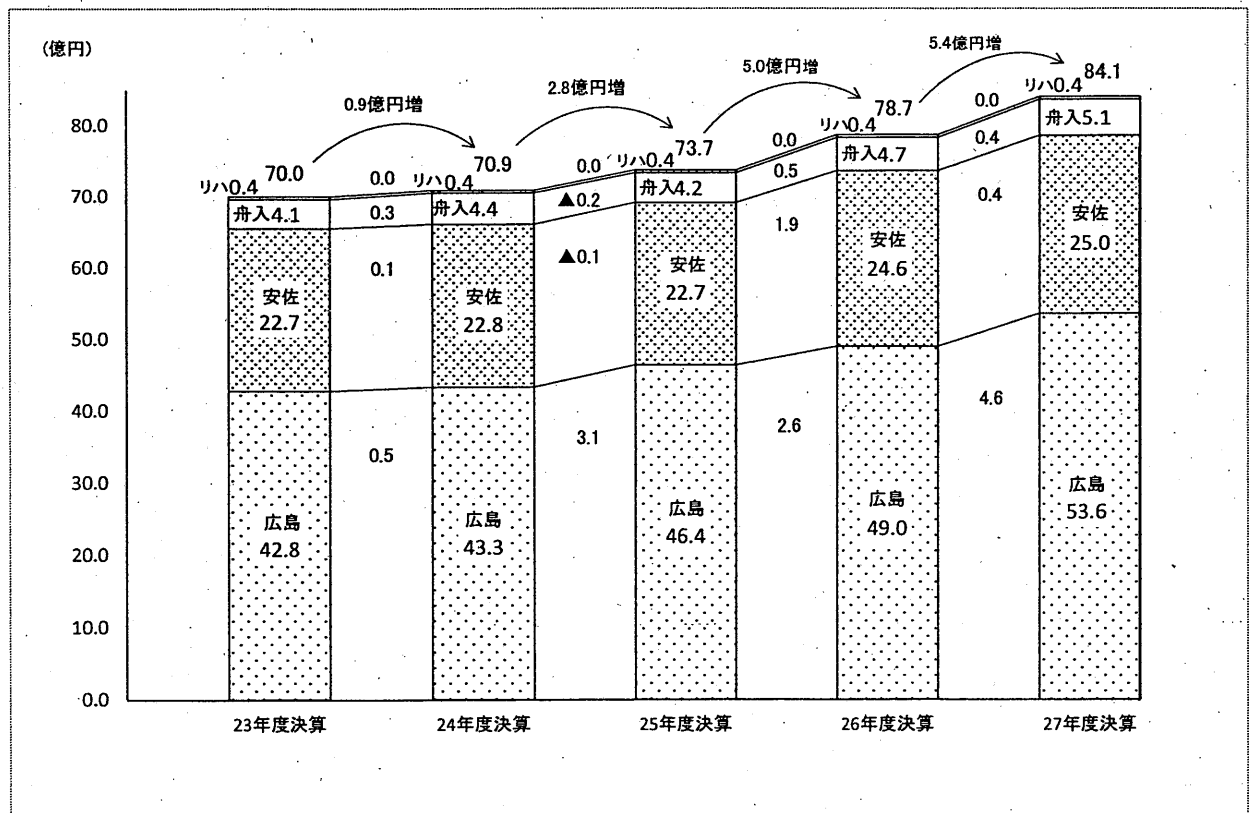


注 材料費対医業収益比率=[材料費/医業収益(入院収入+外来収入+その他医業収入)]×100

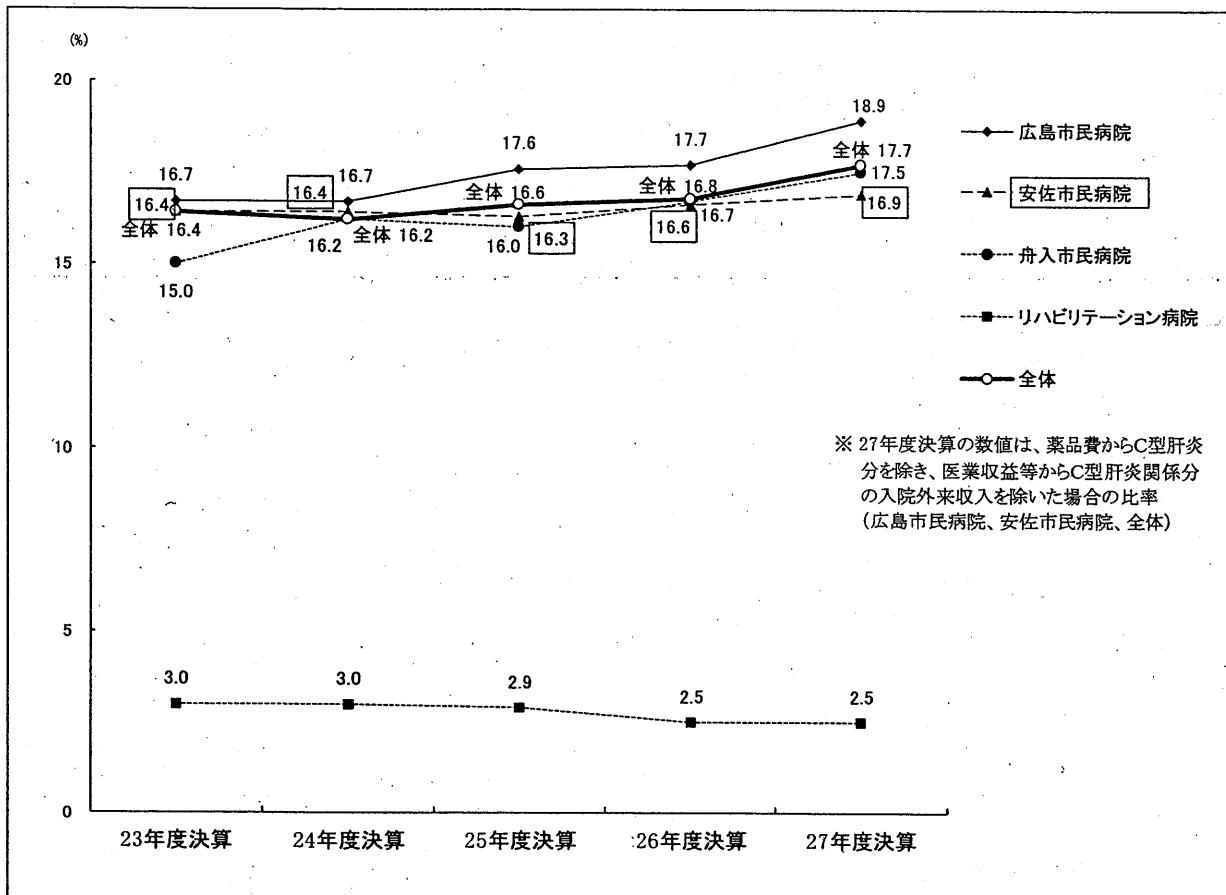
(図9-1) 材料費のうち薬品費



(図9-2) 材料費のうち薬品費 (27年度決算からC型肝炎の新薬分を除いた場合)



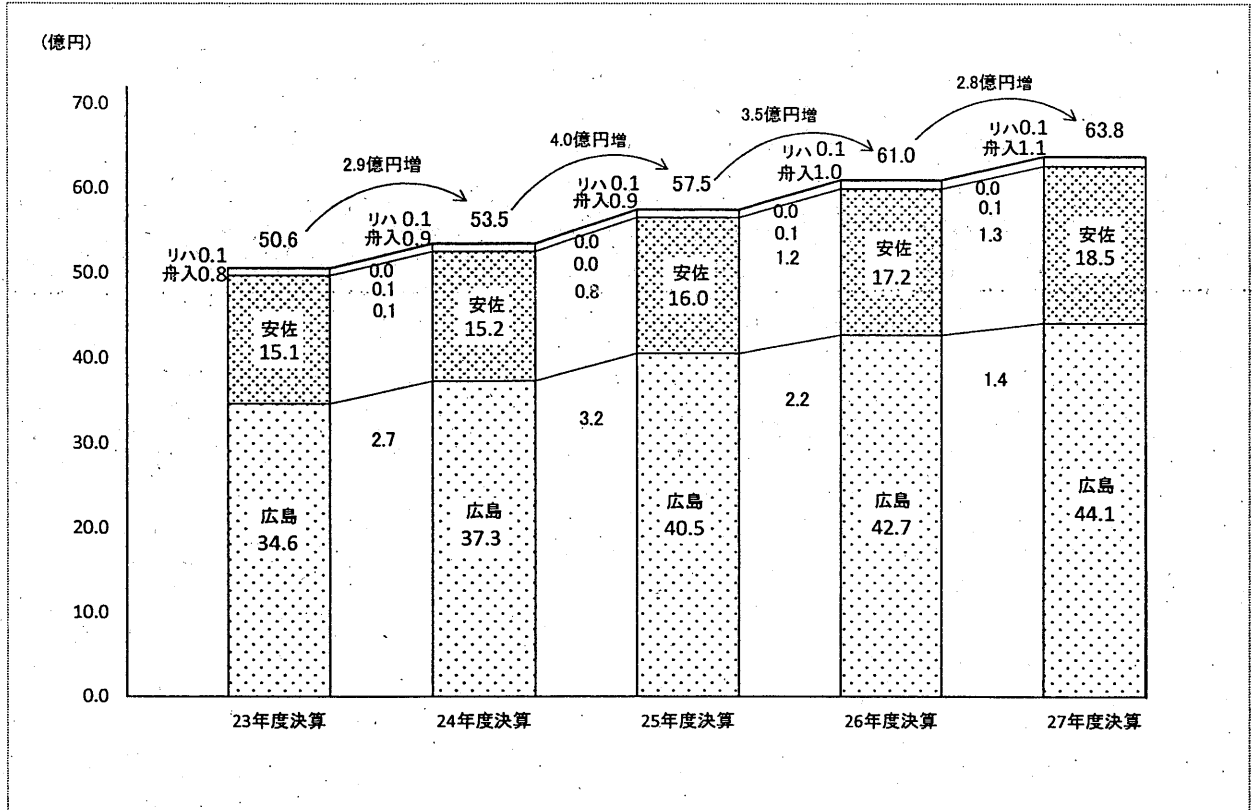
(図 10) 薬品費対医業収益比率



注 薬品費対医業収益比率 = [薬品費 / 医業収益(入院収入 + 外来収入 + その他医業収入)] × 100

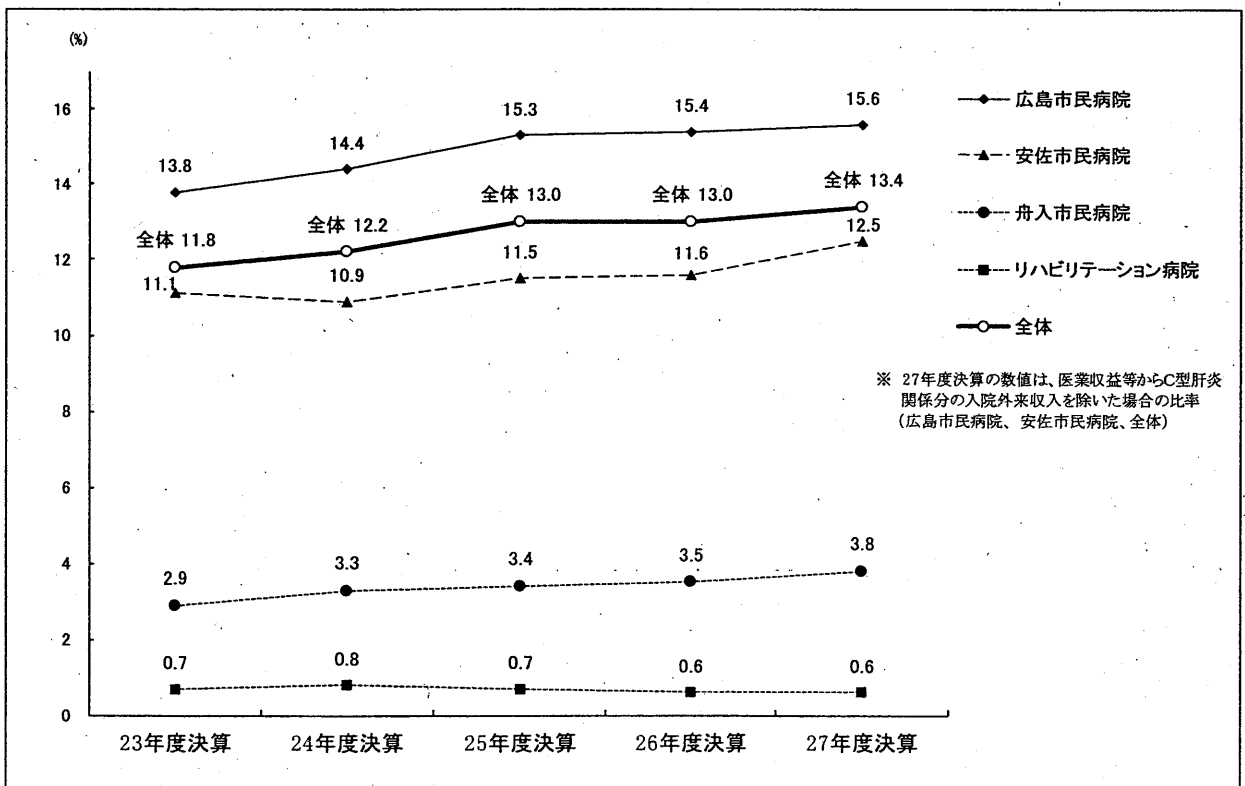


(図 11) 材料費のうち診療材料費



注 各費目のグラフ間の数値は、対前年度増減額

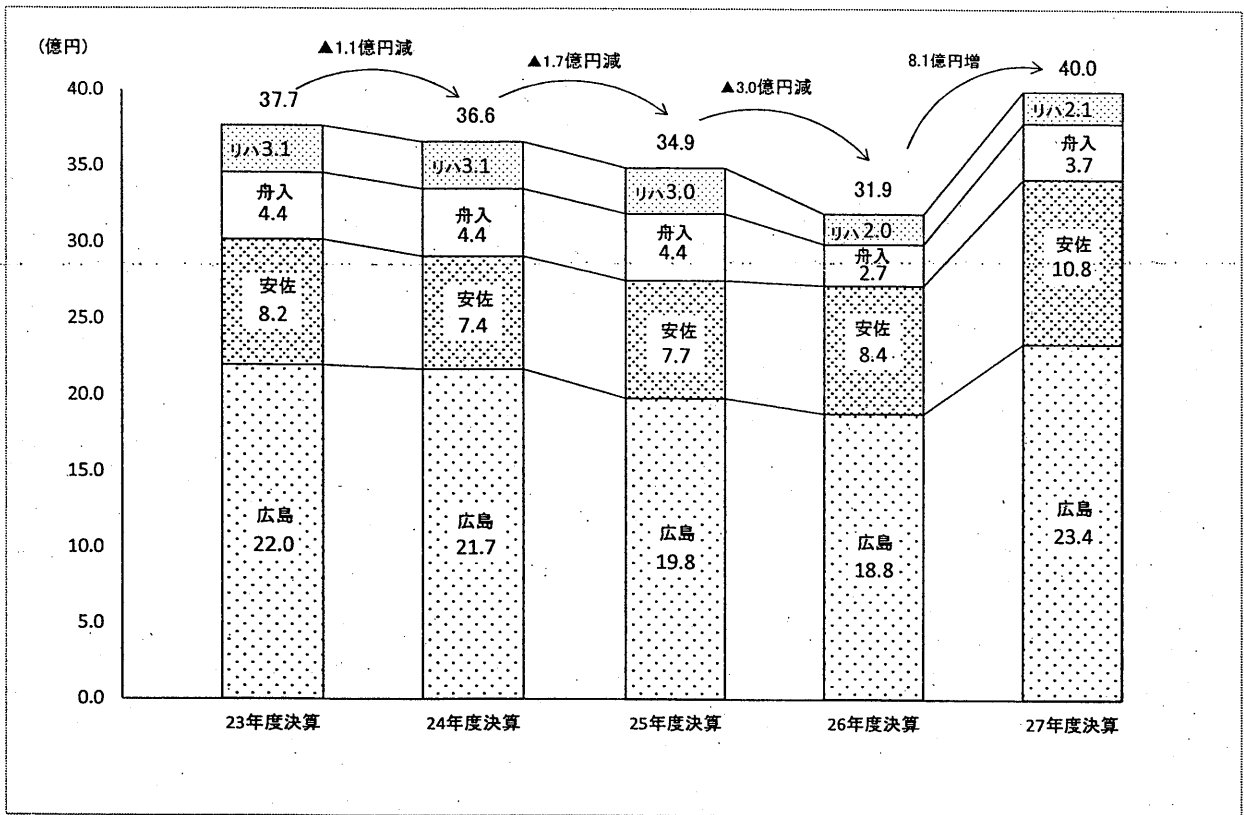
(図 12) 診療材料費対医業収益比率



注 診療材料費対医業収益比率 = [診療材料費 / 医業収益 (入院収入 + 外来収入 + その他医業収入)] × 100

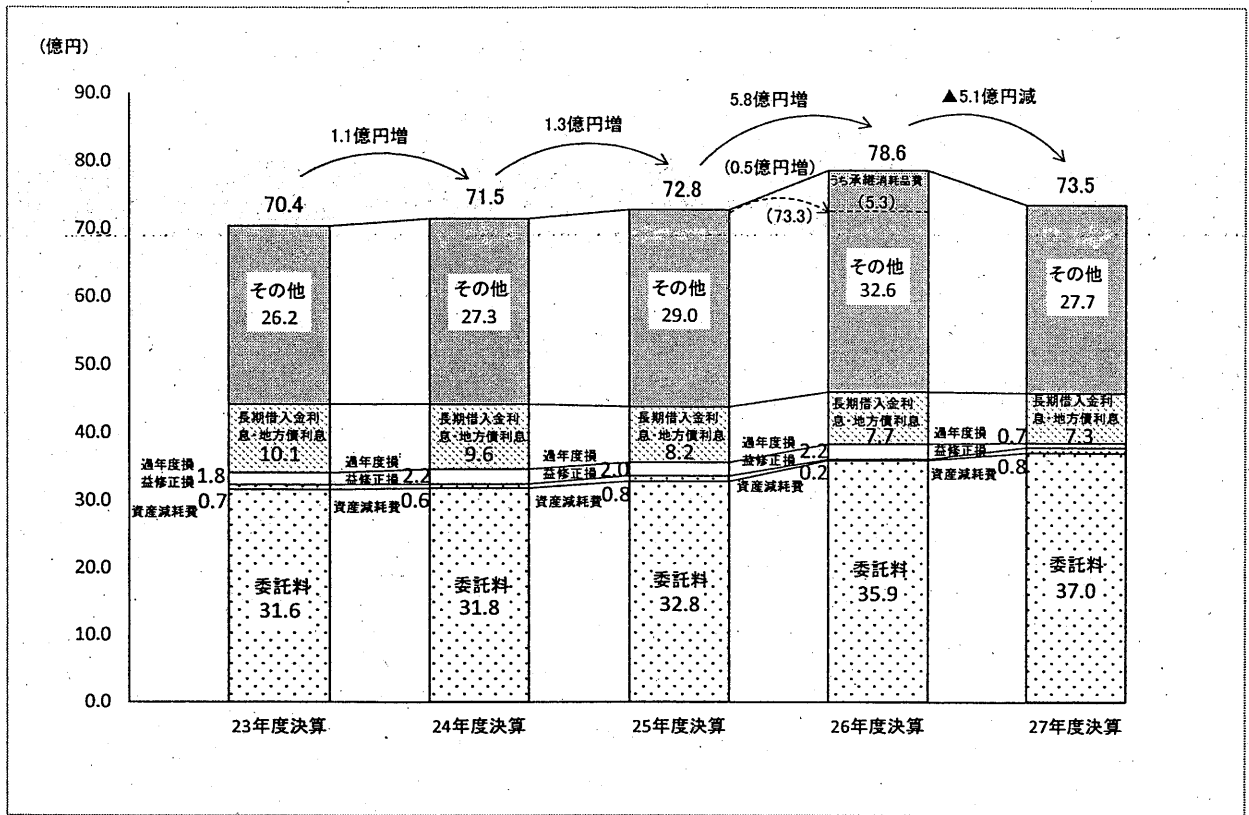
※ 材料費の内訳として主なものを記載しており、この他に、給食材料費、医療消耗備品費があることから内訳の合計額は、決算額には一致しない。

(図13) 減価償却費

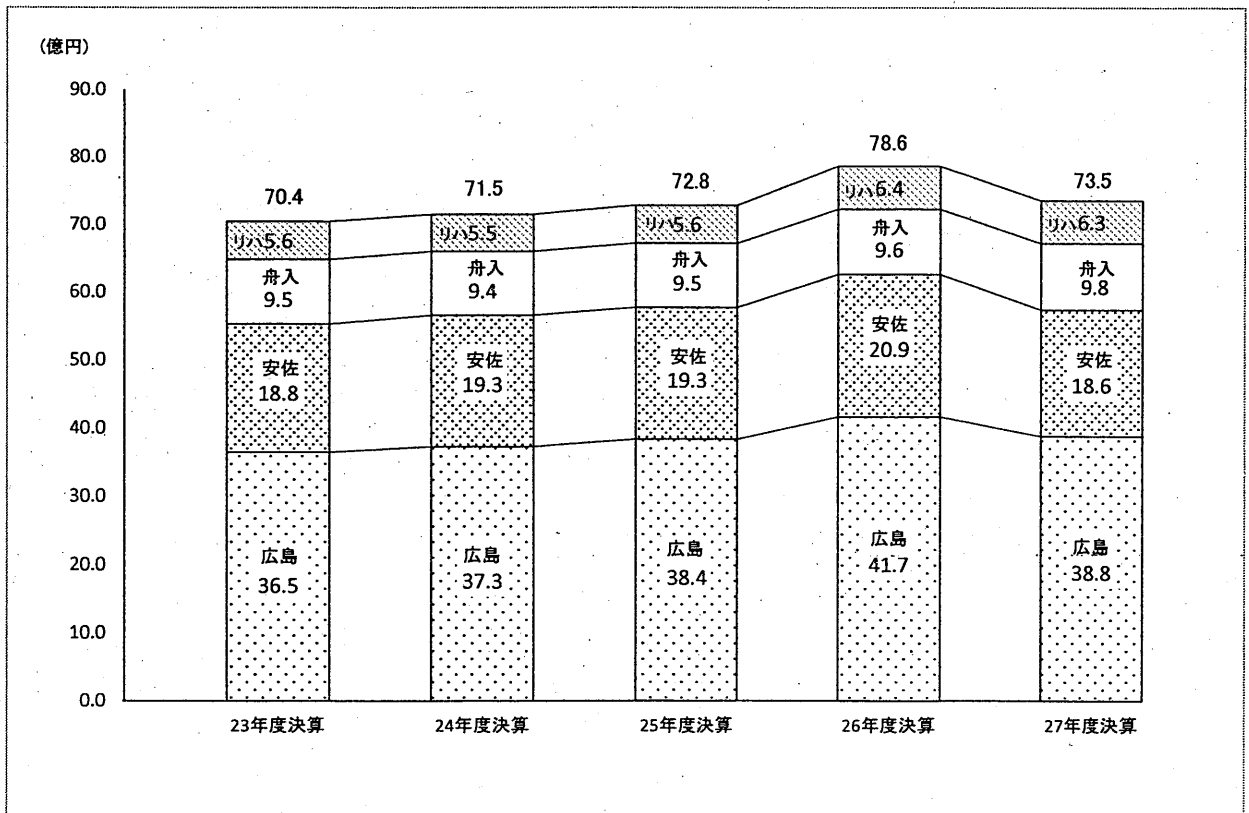


(図14) その他の支出

ア 費目別



イ 病院別



## 2 平成 27 年度計画との比較

### (1) 全体

計画では、安佐市民病院建替えに伴う基本計画に係る委託料 0.2 億円を当初の計画を変更し増額したことにより▲0.1 億円の赤字を見込んでいたが、決算では、▲5.6 億円減の▲5.7 億円の赤字となった。

収入は、計画に比べ、外来単価の増などによる入院・外来収入の 9.5 億円増（C型肝炎新薬を除くと▲5.4 億円の減）、リハビリテーション医療にかかる繰入の減などによる運営費負担金の▲0.3 億円の減など収入ごとに増減はあるものの、全体として 8.2 億円の増となった。

一方、支出は、計画に比べ 13.8 億円の増となり、収入の増を上回ったことから赤字が生じることとなった。

支出の内訳としては、給与費が、特に看護師について必要数の採用、確保ができず、▲7.2 億円の減となった、また、材料費は、削減目標を盛り込んだ計画としていたが、高額な薬品、診療材料の使用の増などにより 27.9 億円の増（C型肝炎新薬を除くと 13.4 億円増）となった。また、減価償却費が 1.5 億円の増、その他の支出では、施設・医療機器の修繕費、業務委託料の執行残や消耗品費等の削減、抑制に努めたことにより▲8.4 億円の減となった。

(表12) 27年度計画と決算の比較

単位:億円

区分		27年度計画①	27年度決算②	差引②-①	
収 入	医 業 収 益	入院収入	350.7	(336.3) 337.7	(▲ 14.4) ▲ 13.0
		外来収入	122.7	(131.7) 145.2	(9.0) 22.5
		計	473.4	(468.0) 482.9	(▲ 5.4) 9.5
		その他	9.0	8.5	▲ 0.5
		小計	482.4	491.4	9.0
	運営費負担金・交付金	46.5	46.2	▲ 0.3	
	その他	8.4	7.9	▲ 0.5	
	合計	537.3	545.5	8.2	
支 出	給与費	280.8	273.6	▲ 7.2	
	材料費	135.6	(149.0) 163.5	(13.4) 27.9	
	減価償却費	38.5	40.0	1.5	
	その他	82.5	74.1	▲ 8.4	
	合計	537.4	551.2	13.8	
差引損益		▲ 0.1	▲ 5.7	▲ 5.6	

※1 27年度の( )の数値は、27年度に新たに発売された薬価が高額で、かつ27年度で使用が概ね終息する見込であるC型肝炎の新薬を入院収入から1.4億円、外来収入から13.5億円、材料費から14.5億円を除いたもの。

※2 計画(予算)には消費税を含むため、決算にも含めている。このため、損益収支の額には合わない。(以下の各病院の表も同じ)

(2) 広島市民病院

高額なC型肝炎新薬や抗がん剤を使用したことにより、外来収入が計画を17.9億円上回り（C型肝炎新薬を除くと7.3億円の増）、収入合計では、計画を8.2億円上回る収入を確保することができた。

支出については、給与費は、看護師等の必要数を確保できなかったことなどから▲3.7億円の減、減価償却費は0.2億円の増、その他支出は、修繕費の執行残などにより▲3.4億円の減となった。

また、材料費については、高額なC型肝炎新薬や抗がん剤の使用や心臓弁等の診療材料の使用が増加したことなどにより20.4億円の増（C型肝炎新薬を除くと10.1億円計画の増）となり、支出合計では13.5億円の増となった。

収入が8.2億円増となったものの、支出が13.5億円増加したことにより、計画に比べ▲5.3億円収支が悪化し▲4.3億円の赤字となった。

(表13) 27年度計画と決算の比較

単位:億円

区分		27年度計画①	27年度決算②	差引②-①
収 入	入院収入	206.7	197.3	▲9.4
	外来収入		(81.5)	(7.3)
			92.1	17.9
	計	280.9	(278.8)	(▲2.1)
	その他	4.4	4.7	0.3
	小計	285.3	294.1	8.8
	運営費負担金・交付金	17.5	17.5	0.0
	その他	4.7	4.1	▲0.6
合計	307.5	315.7	8.2	
支 出	給与費	152.5	148.8	▲3.7
	材料費		(98.3)	(10.1)
			108.6	20.4
	減価償却費	23.2	23.4	0.2
	その他	42.6	39.2	▲3.4
合計	306.5	320.0	13.5	
差引損益		1.0	▲4.3	▲5.3

※ 27年度の( )の数値はC型肝炎新薬を外来収入から10.6億円、材料費から10.3億円除いたもの。  
なお入院収入にもC型肝炎新薬が約180万円含まれているが、少額のため( )表示していない。

(3) 安佐市民病院

収入は、入院・外来収入が、計画を1.0億円上回る（C型肝炎新薬を除くと▲3.3億円下回る）など、収入合計では1.5億円の収入増となった。

支出については、給与費は、看護師等の必要数を確保できなかったことなどから▲2.7億円の減、材料費は6.8億円の増（C型肝炎新薬を除くと2.6億円の増）、減価償却費は1.1億円の増、その他の支出は修繕費の執行残等により▲3.1億円の減となり、支出合計では2.1億円の増となった。

収入が1.5億円増となったものの、支出が2.1億円増加したことにより、計画に比べ▲0.6億円収支が悪化したものの僅かながら黒字となった。

(表14) 27年度計画と決算の比較

単位:億円

区分		27年度計画①	27年度決算②	差引②-①	
収入	医業収益	入院収入	112.2	(107.6) 109.0	(▲4.6) ▲3.2
		外来収入	36.9	(38.2) 41.1	(1.3) 4.2
		計	149.1	(145.8) 150.1	(▲3.3) 1.0
		その他	2.0	2.0	0.0
		小計	151.1	152.1	1.0
	運営費負担金・交付金	8.3	8.9	0.6	
	その他	1.7	1.6	▲0.1	
	合計	161.1	162.6	1.5	
支出	給与費	87.8	85.1	▲2.7	
	材料費	41.2	(43.8) 48.0	(2.6) 6.8	
	減価償却費	9.7	10.8	1.1	
	その他	21.8	18.7	▲3.1	
	合計	160.5	162.6	2.1	
差引損益		0.6	0.0	▲0.6	

※ 27年度の( )の数値はC型肝炎新薬を入院収入から1.4億円、外来収入から2.9億円、材料費から4.2億円除いたもの。

(4) 舟入市民病院

入院・外来収入は0.3億円、運営費負担金・交付金は0.4億円増となったものの、医業収益のその他収入は▲0.7億円の減となるなど、収入合計では0.1億円の収入増となった。

支出については、材料費は0.8億円の増、減価償却費は0.2億円の増、その他支出は▲1.1億円の減となるなど、支出合計では計画どおりとなった。

その結果、差引損益は、計画に比べ0.1億円収支が改善され僅かながら黒字となった。

(表15) 27年度計画と決算の比較

単位:億円

区 分		27年度計画①	27年度決算②	差引②-①
収 入	入院収入	16.2	16.1	▲ 0.1
	外来収入	11.2	11.6	0.4
	計	27.4	27.7	<u>0.3</u>
	その他	2.2	1.5	▲ 0.7
	小 計	29.6	29.2	▲ 0.4
	運営費負担金・交付金	12.4	12.8	<u>0.4</u>
	その他	1.0	1.1	0.1
	合 計	43.0	43.1	<u>0.1</u>
支 出	給与費	23.0	23.1	0.1
	材料費	5.6	6.4	<u>0.8</u>
	減価償却費	3.5	3.7	<u>0.2</u>
	その他	10.9	9.8	▲ 1.1
	合 計	43.0	43.0	<u>0.0</u>
差引損益		0.0	<u>0.1</u>	<u>0.1</u>

(5) リハビリテーション病院・自立訓練施設

入院・外来収入は▲0.3億円の減、運営費負担金・交付金は、リハビリテーション医療にかかる繰入の減などにより▲1.3億円の減となるなど、収入合計では▲1.6億円の減となった。

支出については、給与費、材料費、その他支出が減となり、支出合計では▲1.8億円の減となった。

その結果、差引損益は、計画に比べ0.2億円改善されたものの▲1.5億円の赤字となった。

(表16) 27年度計画と決算の比較

単位:億円

区分		27年度計画①	27年度決算②	差引②-①
収入	入院収入	15.6	15.3	▲0.3
	外来収入	0.4	0.4	0.0
	計	16.0	15.7	▲0.3
	その他	0.4	0.3	▲0.1
	小計	16.4	16.0	▲0.4
	運営費負担金・交付金	8.3	7.0	▲1.3
	その他	1.0	1.1	0.1
	合計	25.7	24.1	▲1.6
支出	給与費	17.5	16.6	▲0.9
	材料費	0.6	0.5	▲0.1
	減価償却費	2.1	2.1	0.0
	その他	7.2	6.4	▲0.8
	合計	27.4	25.6	▲1.8
差引損益		▲1.7	▲1.5	0.2